

## 有機農産物等野菜に対する消費者意識

誌名	東北農業研究
ISSN	03886727
著者	松久, 勉
巻/号	52号
掲載ページ	p. 267-268
発行年月	1999年12月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター  
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council  
Secretariat



## 有機農産物等野菜に対する消費者意識

松久 勉

(東北農業試験場)

Consumers' Consciousness for Organic Farm Products including Vegetables

Tsutomu MATSUHISA

(Tohoku National Agricultural Experiment Station)

### 1 はじめに

近年、消費者の健康、安全性志向が強まり、「有機農産物等」(本報告では、有機農産物や無農薬栽培、減農薬栽培などの特別栽培農産物の総称とする。以下同様)、に対する関心が高まってきているといわれている。これに対応して、外食産業や大手スーパーが「有機農産物等」を積極的に取り扱うようになった結果、「有機農産物等」は一部のこだわりをもった消費者だけが購入するものから身近に購入できる商品となり、それに応じて「有機農産物等」の流通量も増大してきていると言われている。

このように「有機農産物等」の取扱量が増大するなかで、一般消費者が「有機農産物等」をどう評価しているかを調査することが本報告の目的である。アンケート調査を実施し、その単純集計、クラスター分析を用いて、一般消費者の減農薬栽培野菜を中心に「有機農産物等」に対する意識を分析する。

### 2 アンケートの概要

アンケート調査の対象は、東北地域の野菜の主な消費地である京浜都市圏のうち、特に都市化の進んでいる地域として、東京都23区を対象とした。ただし、居住人口の少ない千代田区、中央区、港区は除外した。対象の選抜方法であるが、東京都23区は人口が極めて多いため、郵便番号(ほぼ町名に該当)により地域をピックアップした後に、当該郵便番号の居住地の電話帳データから1000戸を選抜した。電話帳データは若年層を中心に電話帳非掲載を希望する者が多くサンプルが偏る懸念はあるが、申請などの手間がかからず簡単に入手、抽出できる(電話帳データはパソコンソフトとして販売されている)ことから便利なデータである。

アンケート調査は98年11月末に郵送し、12月中旬まで回収を行った。郵送したアンケート数は1000通、そのうち宛先不明、住所不明による未配達返送が108通、返送が345通で、回収率が34.5%、未配達返送分を除くと38.7%となった。

アンケートの対象者は、普段の家事の担当者に依頼したため、回答者の属性をみると、男性62名、女性279名と女性が多く、年齢別では60歳代90名、40歳代79名、50歳代66名、70歳代以上54名、30歳代38名、20歳代が15名と中高年の割合が多くなっている。

### 3 アンケートの単純集計の結果

(1)減農薬栽培野菜と通常栽培野菜との差  
80%が「減農薬栽培野菜が通常栽培野菜よりもよい」と

答えており、多くの人が減農薬栽培野菜を評価していることがうかがわれる。他の回答では「わからない」が15%を占めている。

#### (2)減農薬栽培野菜の定義

減農薬栽培野菜の定義については、「原則無農薬」(38%)と「1, 2回ぐらいの使用」(18%)とで過半を占めており、減農薬栽培を無農薬栽培に近いものと考えていることがうかがわれる。

#### (3)減農薬栽培野菜を購入する価格

「通常栽培の2割程度まで」(32%)、「通常栽培の1割程度まで」(29%)が多く、5割高以上でも購入すると答えた者は非常に少なかった。

#### (4)キャベツを購入する時に気を付ける点

具体的な作物をキャベツと特定化して、購入する時に気を付ける点を質問したところ、「国産かどうか」が最も高く、ついで「しまり具合」、「価格」が高くなっている。逆に、「大きさ」、「有機農産物等」、「産地(国内)」が低くなっている。

表1 キャベツを購入するときに気を付ける点

	非常に (%)	かなり (%)	少し (%)	気しない (%)	不明 (%)	平均得点
国産かどうか	34.8	25.5	17.7	9.9	12.2	3.05
しまり具合	17.1	41.4	26.7	3.2	11.6	2.68
価格	18.3	33.0	33.6	3.5	11.6	2.53
葉の緑の色	15.7	36.2	27.8	8.1	12.2	2.45
虫食いの有無	18.3	22.0	36.5	11.9	11.3	2.19
葉のキズ	10.1	24.9	36.5	15.9	12.5	1.85
産地(国内)	14.5	16.5	23.2	33.6	12.2	1.65
有機農産物など	6.1	20.6	46.7	14.2	12.5	1.59
大きさ	4.3	15.4	44.3	20.6	15.4	1.33

注. 平均得点は「非常に」を5点、「かなり」を3点、「少し」を1点としたときの平均(不明は除く)

### 4 クラスタ分析によるグループ化

年齢、性別、職業、家族員数など基本的な属性と各回答の間の独立性を調べたが、明確な差をえることができなかった。このため、食物、料理などに関する消費者意識の回答を基にクラスター分析によりグループ化を行い、作成したグループごとの特性をみることで、消費者意識の差異による購買行動などの差を明らかにした。データは、郵送アンケート回答者のうち、消費者意識に関連したデータに欠測値のなかった249名を用いた。

具体的な質問項目は、以下の10項目である。

- ①野菜が減農薬、無農薬栽培のものかどうか気になる
- ②食品の品質表示はよく見る方である

- ③安い輸入野菜があっても国産品を購入する方である
- ④環境ホルモンに関する報道に興味がある
- ⑤遺伝子組み替えした農産物の報道には興味がある
- ⑥毎日の食事の献立を考えることは好きな方である
- ⑦カロリーや栄養バランスを考えて料理する方である
- ⑧雑誌やテレビからよく生活情報を得ていると思う
- ⑨新しい食品、珍しい食品はすぐ食べたい方である
- ⑩テレビで体によいと紹介された食品は買ってみる方である

この10項目について、クラスター分析(正規化されたデータを使用, ウォード法)を行い, 9グループに分類した。表2は, 「減農薬, 無農薬栽培のものかどうか気になる」について, 得点の低い方から高い方に並べたものである。I~IVのグループは無農薬, 減農薬栽培への関心が薄いグループであるが, 食品安全性にも関心の無いグループや生活情報は得ている食品には興味の無いグループなど, グループ間に大きな差がみられる。同様に, 無農薬, 減農薬栽培への関心が高いVI~IXグループでは, 表示や国産へのこだわりが高いことでは共通しているが, マスコミからの生活情報の入手状況, 献立を考えることなどではグループ間で大きな差がみられる。

分類されたグループ別に他の質問(有機農産物等の購買状況, 減農薬栽培に対する価格, キャベツの購入で気を付

ける点など)の回答をみると, 無農薬, 減農薬栽培に関心のあるグループVI~IXでは, 有機農産物等の購入割合が高く, 減農薬栽培を購入してもかまわない価格が通常栽培と同程度という割合が低いことは共通しているが, 「減農薬栽培が通常栽培より非常によい」と思っている人の割合や東京都のガイドラインの内容がわかる人の割合では, グループVIII, IXで高い割合を示している。

無農薬, 減農薬栽培に関心の薄いグループI~IVは, キャベツを購入する時に気を付ける点のうち「産地(国内)」, 「有機農産物などかどうか」の平均点が低い一方で, 「価格」については, グループVI~IXよりやや高くなっている。減農薬栽培などの評価も低いことから, 減農薬栽培を購入してもかまわない価格が通常野菜と同程度の割合も高くなっている。

5 ま と め

消費者は安全性志向が高まっていると言われているが, 今回のアンケート調査をみるかぎりでは多様な消費者がおり, すべての消費者で減農薬農産物などを評価している訳ではないことがうかがわれた。今回のアンケートは第1回目の調査であるので, 問題点を整理して今年度もアンケート調査を実施したい。

表2 グループ別の特徴

グループ番号	構成比 (%)	無, 減農薬栽培	表示をよくみる	国産へのこだわり	環境ホルモン	遺伝子組換え	献立を考えること	カロリー, 栄養	マスコミから生活情報	新食品	テレビで紹介された食品
I (安全性に興味なし)	8	-4	1	2	-2	-6	-2	2	-4	-3	-3
II (食品情報興味なし)	10	-3	2	0	9	7	-2	4	6	3	3
III (生活情報入手しない)	7	-3	3	-4	8	1	0	1	-1	-4	-5
IV (料理に興味なし)	6	0	7	7	9	3	-1	-4	3	-3	3
V (平均的)	17	1	5	6	5	4	0	5	5	-1	0
VI (新しいもの好き)	14	4	7	6	7	2	7	7	5	7	5
VII (生活情報入手, 献立きらい)	13	4	9	8	9	6	-2	7	8	-2	6
VIII (生活情報入手しない, 料理好き)	10	6	9	9	9	7	7	7	3	-3	-5
IX (生活情報入手, 料理好き)	13	7	10	4	9	9	6	9	8	1	7

注. 各質問の「そう思う」を+10点, 「ややそう思う」を+5点, 「どちらともいえない」を0点, 「あまりそう思わない」を-5点, 「そう思わない」を-10点とし, 各グループの平均点を示した。

表3 グループと他の質問との関連

グループ番号	構成比 (%)	購入する野菜の半分以上は有機農産物等である人の割合 (%)	減農薬栽培が通常栽培より非常によいと思う人の割合 (%)	東京都のガイドラインの内容がわかる人の割合 (%)	減農薬栽培の野菜を購入してもかまわない価格の通常野菜の5割以上でも買う (%)	キャベツを購入するとき気を付ける点 (平均点)					
						国産かどうか	葉の緑の色	価格	有機農産物など	産地(国内)	
I (安全性に興味なし)	8	16	0	0	26	5	1.5	2.1	2.4	0.4	0.8
II (食品情報興味なし)	10	8	4	4	19	4	1.8	2.4	2.8	0.8	0.8
III (生活情報入手しない)	7	11	0	6	39	0	1.2	2.4	2.8	0.7	0.3
IV (料理に興味なし)	6	6	13	0	25	0	3.5	2.3	3.3	1.1	0.9
V (平均的)	17	30	5	2	21	2	3.1	2.9	2.6	1.4	1.3
VI (新しいもの好き)	14	37	14	0	3	9	3.3	3.1	2.2	1.5	1.6
VII (生活情報入手, 献立きらい)	13	39	15	3	6	9	4.0	2.9	2.2	1.7	2.6
VIII (生活情報入手しない, 料理好き)	10	38	35	12	12	0	3.8	2.7	2.2	2.2	2.2
IX (生活情報入手, 料理好き)	13	55	24	21	3	15	3.4	2.7	2.3	2.4	2.0